

第75回 全日本中学校長会研究協議会 岩手大会

第74回 東北地区中学校長会研究協議会 岩手大会

実施要項(案)

「未来への一步を 共に、黄金の國いわてから」



期 日	令和6年10月16日(水)・17日(木)・18日(金)	
会 場	ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING	(16日)
	トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)	(17日・18日)
	岩手教育会館	(17日)
	岩手県公会堂	(17日)
	サンセール盛岡	(17日)
	盛岡市総合福祉センター	(17日)
	盛岡市勤労福祉会館	(17日)

目 次

I	岩手大会開催要項	
II	都道府県別参加者割当表（未確定）	
III	大会実行委員会組織図	
IV	大会日程	
V	研究協議会主題及び分科会研究題	
VI	大会推進のための主な依頼事項	
VII	大会予算書（未定）	

【連絡事項】

○会員意識の高揚と、連帯感を深めるため、全日中バッジを付けてください。

大会スローガン

岩手大会「未来への一步を 共に、黄金の國いわてから」

これからの時代に求められる教育を実現するためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという概念を学校と社会が共有していくことが不可欠です。また、各学校においては、理念を具現化すべく創意工夫ある教育課程を編成し、すべての生徒に「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」等を校長のリーダーシップのもと、組織的に育むことがますます重要になってきています。

これらを踏まえ、学校が、保護者・地域等の関係者と共に、よりよい未来に向かって、生徒に社会の形成者としての参画意識を育む場としての機能を果たすべく、「これからの学校のあるべき姿」を会員の皆様と共に岩手大会で探り、黄金の國いわてから発信していこうという願いを込めて、本スローガンを設定いたしました。

シンボルマークの解説

黄金の國いわて

メインコピーにある「黄金の國いわて」は、平泉をはじめとした岩手の誇る歴史や文化、すばらしい自然、安全・安心な農林水産物、各地で伝承される伝統芸能や伝統工芸、実直で勤勉な人材など、岩手全体の豊かさと信頼を表現しています。

メインキャラクターの岩手県観光PRキャラクター「わんこきょうだい・そばっち」は、「人を幸せにする」＝「人をもてなす」がテーマになっており、岩手で人をもてなす象徴といわれる「わんこそば」と生産量日本一を誇る漆を使った「漆器」の2つをかけあわせて出来たキャラクターです。

その「そばっち」を中心に、世界遺産や岩手を象徴する自然、そして、復興を表す三陸鉄道などを盛り込むことで、来県される方々へのおもてなしの気持ちと、岩手の豊かさと変わらぬ価値、信頼を表現しました。



I 第75回 全日本中学校長会研究協議会 岩手大会 開催要項（案）

第74回 東北地区中学校長会研究協議会 岩手大会 開催要項（案）

1 開催趣旨

社会のグローバル化や絶え間ない技術革新の波による高度情報化、人口減少による少子高齢化が急速に進む中、我が国では、21世紀にふさわしい、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。

学校教育においても、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「確かな学力」の定着と「豊かな心」と「健やかな体」を育むための「カリキュラムマネジメント」を確立しなければならない。そのような中、岩手県においては、東日本大震災で学んだ教訓を生かし、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、「岩手の復興教育」を学校経営に位置付け「自らの生き方・あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造するひとづくり」に取り組んできた。

また、私たち校長には、Society5.0時代の到来を見据えた人材育成やGIGAスクール構想による個別最適な学びと協働的な学びを実現する等、予測困難な時代に対応した新たな学校づくりに向けてのリーダーシップとマネジメントの両機能が求められている。

そこで、全日本中学校長会は、国民の負託にこたえるため、教育改革を推進し中学校教育の向上に資するとともに、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を主題とし、研究を推進してきているところである。

本大会においては、これまでの研究の成果を踏まえつつ、全国中学校長の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が国の中学校教育の充実発展を期するものである。

2 研究協議会主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

- 3 主催** 全日本中学校長会 東北地区中学校長会
- 4 主管** 岩手県中学校長会
- 5 後援** 文部科学省 岩手県 岩手県教育委員会 盛岡市 盛岡市教育委員会
 (予定) 岩手県市町村教育委員会協議会 岩手県小学校長会 (一社) 岩手県PTA連合会
 日本教育会岩手支部 (公財) 日本教育公務員弘済会岩手支部
 岩手県学校生活協同組合

6 期 日 令和6年10月16日(水)・17日(木)・18日(金)

7 大会日程

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
16日 (水)				受付	全日中 常任理事会		受付	全日中 理事会		受付	歓迎の集い レセプション		
						受付	全体協議会 運営委員会	受付	分科会 運営委員会				
17日 (木)	受付	開 会 式	文 科 省 説 明	全 体 協 議 会	移 動 ・ 昼 食		分 科 会 (8会場)						
18日 (金)	受付	ア ト ラ ク シ ョ ン	全 体 会	記 念 講 演	開 会 式								

8 会 場

10月16日(水)

会 議 名		会 場	時 間	所在地
(1)	全 日 中 常任理事会	ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING [3F 桐] (29名程度)	11:30～ 13:50	盛岡市盛岡駅前北通 2-27
(2)	全 日 中 理 事 会	ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING [3F 星雲の間] (70名程度)	14:15～ 17:00	
(3)	全体協議会 運営委員会	ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING [3F 桂] (19名程度)	13:30～ 14:30	
(4)	分 科 会 運営委員会	ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING [4F メトロポリタンホール南] (最大90名程度)	15:00～ 17:00	
(5)	レセプション	ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING [4F メトロポリタンホール東西] (最大170名程度)	18:00～ 20:00	

10月17日(木)

会 議 名		会 場	時 間	所在地
受 付		トーサイクラシックホール岩手 (岩手県民会館) 大ホール	8：45～ 9：25	盛岡市内丸 13－1
(6)	開 会 式		9：30～10：20	
(7)	文科省説明 全体協議会		10：30～12：20	
移 動 ・ 昼 食			12：25～13：40	
分 科 会	第1分科会 (600名)	トーサイクラシックホール 岩手 大ホール	13：45～16：45	盛岡市内丸 13－1
	第2分科会 (400名)	トーサイクラシックホール 岩手 中ホール		
	第3分科会 (200名)	岩手教育会館 ホール		盛岡市大通 1－1－16
	第4分科会 (200名)	岩手県公会堂 大ホール		盛岡市内丸 11－2
	第5分科会 (100名)	サンセール盛岡 大ホール		盛岡市志家町 1－10
	第6分科会 (100名)	サンセール盛岡 中ホール		
	第7分科会 (100名)	盛岡市総合福祉センター 講堂		盛岡市若園町 2－2
	第8分科会 (100名)	盛岡市勤労福祉会館 大ホール		盛岡市紺屋町 2－9

10月18日(金)

会 議 名		会 場	時 間	所在地
受 付			8：30～ 9：15	
アトラクション			9：20～ 9：50	
(9)	全 体 会		10：00～10：20	
(10)	記 念 講 演 閉 会 式		10：30～12：30	

9 参 加 者 1,800名

10 参 加 費 7,000円

11 来 賓 文部科学大臣 文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当)
岩手県知事 盛岡市長
岩手県教育委員会教育長 岩手県市町村教育委員会協議会会長

盛岡市教育委員会教育長 全日本中学校長会元・前会長
 岩手県中学校長会元・前会長 東北地区中学校長会前会長
 岩手県小学校長会会長 岩手県PTA連合会会長

12 分科会 令和6年10月17日(木) 13:45～16:45

分科会	研究題	担当地区
第1分科会	「カリキュラム・マネジメント」の推進	四国地区 香川県・愛媛県
第2分科会	「主体的・対話的で深い学び」の実現	東海北陸地区 福井県・岐阜県
第3分科会	よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実	東北地区 福島県・宮城県
第4分科会	健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実	関東甲信越地区 茨城県・千葉県
第5分科会	社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実	中国地区 山口県・広島県
第6分科会	自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実	北海道地区 旭川市・留萌地区
第7分科会	「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成	近畿地区 滋賀県・大阪府
第8分科会	学校と地域の連携・協働による「チーム学校」と「働き方改革」の実現	九州地区 大分県・熊本県

13 記念講演

- (1) 日 時 令和6年10月18日(金) 10:30～12:00
 (2) 会 場 トーサイクラシックホール岩手 大ホール
 (3) 講 師 本間 希樹 氏 (国立天文台水沢VLIB観測所所長)
 (4) 演 題 (仮)「黄金の國いわて発 銀河系経由 ブラックホールへの旅」

14 アトラクション

- (1) 日 時 令和6年10月18日(金) 9:20～9:50
 (2) 会 場 トーサイクラシックホール岩手 大ホール
 (3) 内 容 合唱
 (4) 出 演 岩手県矢巾町立矢巾北中学校 特設合唱部

15 参加申込

- (1) 各都道府県中学校長会事務局(以下、「各事務局」)は、都道府県別参加者割当人数表に従い参加者を募ってください。
 (2) 参加者は、岩手県中学校長会ホームページからダウンロードした「参加申込票」に必要事項を記入し、印刷してファイルといっしょに各事務局に送付・送信してください。「参加申込票」のパスワードは各事務局にご確認ください。
 (3) 各事務局には、岩手県中学校長会(以下、「岩手大会事務局」)から「参加者一覧表」を送信しますので、各参加者から送付された「参加申込票」といっしょに(株)近畿日本ツーリスト盛岡営業所へ送付・送信してください。(巻末参照)
 (4) 大会参加費(7,000円/人)は各事務局が取りまとめ、令和6年6月28日(金)までに岩手大会事務局の指定口座に払い込んでください。
 ただし、特別な対応が必要な場合には、各事務局に連絡し了解を得てください。各事務局は、了解した内容を岩手大会事務局及び全日中事務局に報告してください。
 なお、参加者の宿泊費等については取扱業者の対応となります。

16 大会事務局連絡先

第75回全日本中学校長研究協議会岩手大会 事務局(岩手県中学校長会(高橋・古里))
 〒020-0885 岩手県盛岡市紺屋町2-9 盛岡市勤労福祉会館内
 電話・FAX 019-622-0572
 E-mail iwate_jh.kochokai@iris.ocn.ne.jp

Ⅱ 都道府県別参加者割当表（見込み数）

都道府 県 名	参加 者数	分科会参加者数								都道府 県 名	参加 者数	分科会参加者数							
		1	2	3	4	5	6	7	8			1	2	3	4	5	6	7	8
北海道	68	23	15	8	8	3	5	3	3	滋 賀	11	2	1	1	1	1	1	3	1
青 森	153	55	34	16	16	8	8	8	8	京 都	21	7	6	2	2	1	1	1	1
岩 手	144	52	33	16	15	7	7	7	7	大 阪	54	18	13	6	6	3	3	3	2
秋 田	58	19	13	7	7	3	3	3	3	兵 庫	40	13	9	5	5	2	2	2	2
宮 城	193	71	45	20	20	9	9	10	9	奈 良	11	3	2	1	1	1	1	1	1
山 形	94	34	22	12	10	4	4	4	4	和歌山	13	4	3	1	1	1	1	1	1
福 島	115	42	27	14	12	5	5	5	5	鳥 取	8	1	1	1	1	1	1	1	1
茨 城	30	9	6	3	4	2	2	2	2	島 根	11	3	2	1	1	1	1	1	1
栃 木	21	7	5	2	3	1	1	1	1	岡 山	23	8	5	3	3	1	1	1	1
群 馬	22	7	5	2	4	1	1	1	1	広 島	20	6	4	2	2	3	1	1	1
埼 玉	58	21	13	6	7	2	3	3	3	山 口	17	4	3	2	2	3	1	1	1
千 葉	51	16	11	6	6	3	3	3	3	香 川	10	3	1	1	1	1	1	1	1
東 京	86	32	21	9	10	3	4	4	3	高 知	11	3	2	1	1	1	1	1	1
神奈川	57	21	13	6	6	3	3	2	3	徳 島	10	2	2	1	1	1	1	1	1
山 梨	9	2	1	1	1	1	1	1	1	愛 媛	15	4	3	2	2	1	1	1	1
長 野	24	8	5	3	4	1	1	1	1	福 岡	40	13	9	5	5	2	2	2	2
新 潟	27	8	5	3	3	2	2	2	2	佐 賀	10	2	2	1	1	1	1	1	1
富 山	9	2	1	1	1	1	1	1	1	長 崎	18	6	4	2	2	1	1	1	1
石 川	10	2	2	1	1	1	1	1	1	熊 本	19	5	4	2	2	1	1	1	3
福 井	10	1	3	1	1	1	1	1	1	大 分	14	3	2	2	1	1	1	1	3
岐 阜	21	7	5	3	2	1	1	1	1	宮 崎	14	4	2	2	2	1	1	1	1
静 岡	33	10	7	4	4	2	2	2	2	鹿児島	22	7	5	3	3	1	1	1	1
愛 知	49	17	12	5	5	3	3	2	2	沖 縄	16	4	4	2	2	1	1	1	1
三 重	18	6	4	2	2	1	1	1	1	全日中	12	2	2	1	1	1	1	2	2
小 計	1360	472	308	151	152	68	72	69	68	小 計	440	127	91	50	49	32	28	31	32
										合 計	1800	599	399	201	201	100	100	100	100

○ 参加者数は、東北地区各県は東北大会の参加者数に準ずる その他の各都道府県については約12～14%とする

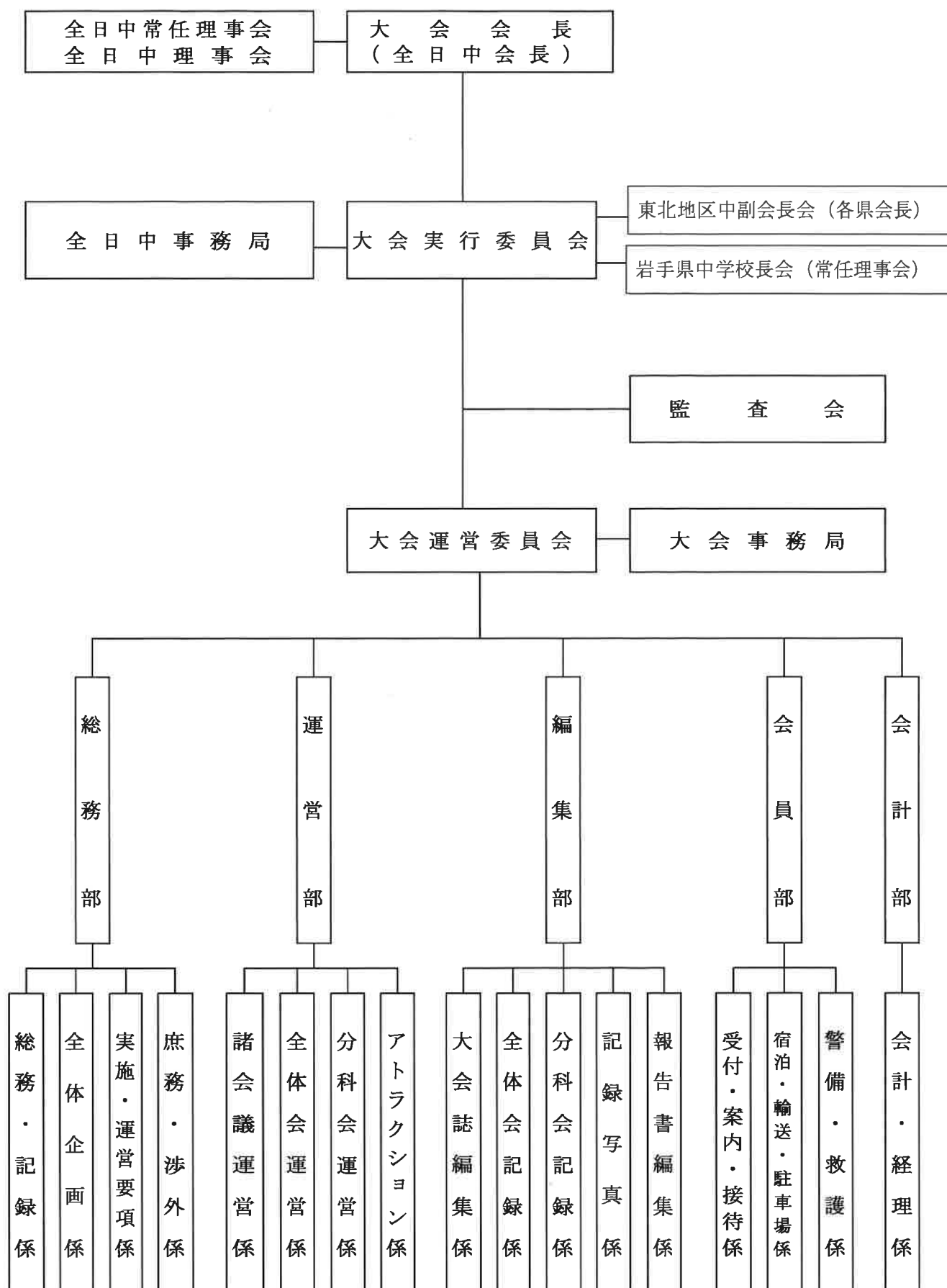
○ 分科会会場

第1分科会	トーサイクラシックホール岩手	大ホール	(600名)
第2分科会	トーサイクラシックホール岩手	中ホール	(400名)
第3分科会	岩手教育会館	ホール	(200名)
第4分科会	岩手県公会堂	大ホール	(200名)
第5分科会	サンセール盛岡	大ホール	(100名)
第6分科会	サンセール盛岡	中ホール	(100名)
第7分科会	盛岡市総合福祉センター	講堂	(100名)
第8分科会	盛岡市勤労福祉会館	大ホール	(100名)

※グループ協議はせず、発表者の発表と会場からの質疑、感想発表の交流で行う。

Ⅲ 大会実行委員会組織図

1 組 織 図

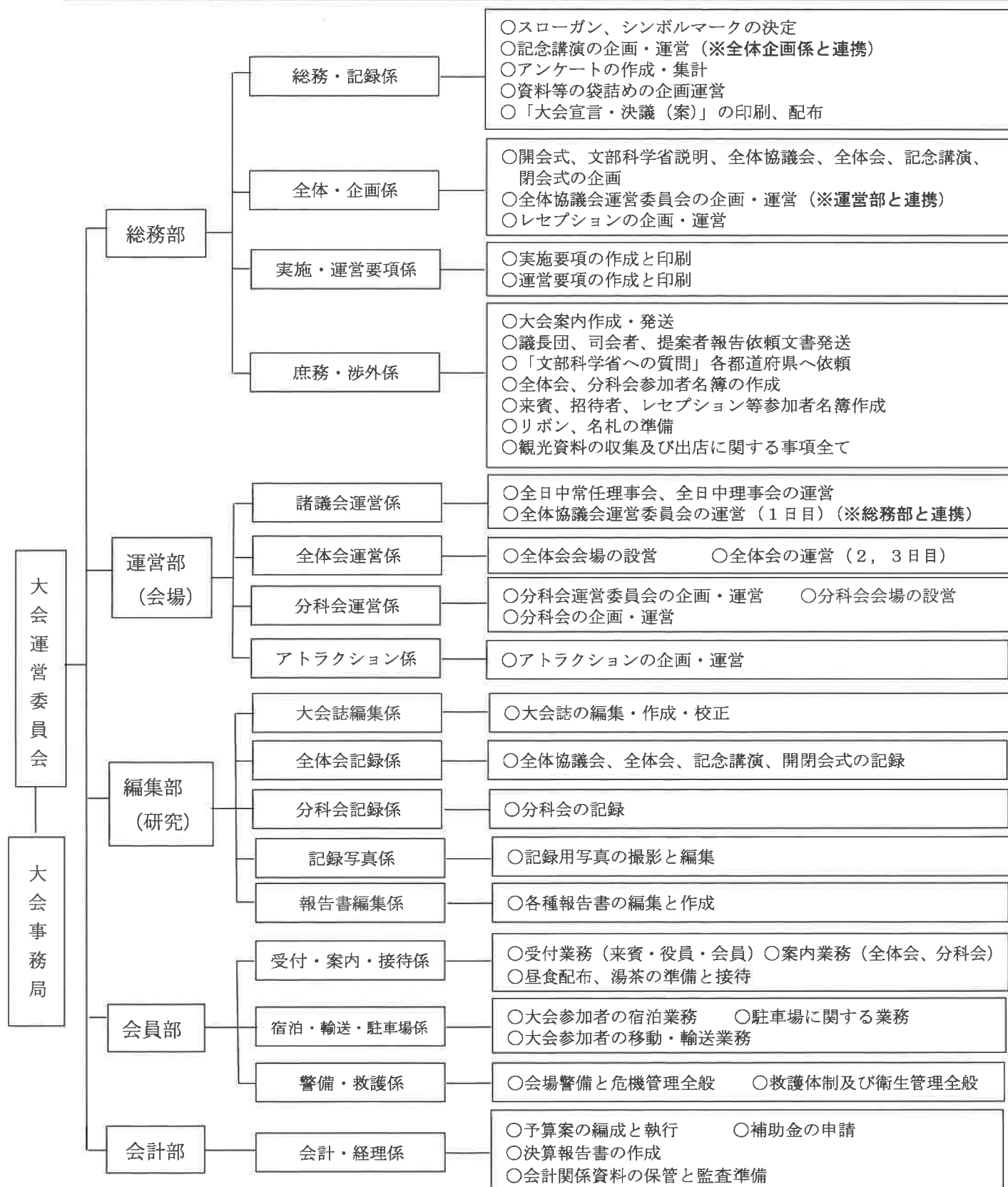


2 大会運営委員会 各部・各係業務内容

＜大会運営委員会＞ ○大会運営全般に係る企画立案・構成・指示・総括及び各事業部との連絡調整

＜大会事務局＞ ○スケジュール管理 ○予算管理 ○対外機関との連絡調整

- ・大会運営委員会の運営及び諸会議の招集 ・運営委員会業務報告書の作成（随時）
- ・文部科学省、全日中関係の依頼 ・大会関係機関・団体への後援依頼 ・大会関係業者の決定と契約
- ・全日中（常任）理事会への提案事項の作成 ・大会負担金、補助金等の申請及び受領 ・報道機関への広報
- ・大会反省・整理及び事務引継ぎ会議の運営



Ⅳ 大会日程

【第1日】10月16日(水)

全日中常任理事会

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 3F 桐

時 程	実 施 内 容	時 間	担 当 者	準 備
11:30	1 開会のことば 2 大会会長あいさつ 3 理事会運営について 4 大会運営について 5 次期開催について 6 諸連絡	140分	全日中事務局 大会事務局 総務部 各係 運営部 各係 編集部 各係 会員部 各係	立看板 座席表(全日中) 大会資料 記章 名札(つり下げ)
13:50	7 閉会のことば			

全日中理事会

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 3F 星雲の間

時 程	実 施 内 容	時 間	担 当 者	準 備
14:15	1 開会のことば 2 大会会長あいさつ 3 大会実行委員長あいさつ 4 会務報告 5 協議	165分	全日中事務局 大会事務局 総務部 各係 運営部 各係 編集部 各係	立看板 座席表(全日中) 大会資料 理事会資料(全日中) 記章
17:00	6 閉会のことば		会員部 各係	名札(つり下げ)

全体協議会運営委員会

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 3F 桂

時 程	実 施 内 容	時 間	担 当 者	準 備
13:30	1 開会のことば 2 協議 ・全体協議会日程について ・全体協議会運営について ・宣言決議の提案等について ・その他	60分	全日中副部長 大会事務局 総務部 各係 運営部 各係 編集部 各係 会員部 各係	立看板 標示札 座席表 大会資料 受付名簿 記章
14:30	3 閉会のことば			接待

分科会運営委員会

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 4F トロポリタンホール東西

時 程	実 施 内 容	時 間	担 当 者	準 備
15:00	1 開会のことば 2 協議 ・分科会運営 ・分科会別打合せ ・その他	120分	全日中副部長 大会事務局 総務部 各係 運営部 各係 編集部 各係 会員部 各係	立看板 標示札 座席表 大会資料 受付名簿 記章
17:00	3 閉会のことば			接待

レセプション

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 4F トロポリタンホール東西

時 程	実 施 内 容	時 間	担 当 者	準 備
18:00	1 開会のことば 2 歓迎のことば(大会実行委員長) 3 大会会長あいさつ 4 来賓祝辞 5 懇親	120分	大会事務局 総務部 各係 運営部 各係 編集部 各係 会員部 各係	立看板 受付用テーブル 標示札 座席表・座席札 受付名簿
20:00	6 閉会のことば			接待

【第2日】10月17日(木)

開会式・文部科学省説明・全体協議会

トーサイクラシックホール岩手 大ホール

時程	行事	実施内容	時間	担当者	準備
8:45	受付	会場準備完了、各係配置完了 受付 資料配付	40分	全体会運営係 宿泊・輸送係 受付案内・接待係 総務部 各係 運営部 各係 会員部 各係	館内放送(BGM及び 岩手県紹介映像) 大会資料 湯茶コップ・ポット等 来賓受付名簿
9:25		開会式準備完了			
9:30		開 会 1 開会宣言 2 国歌斉唱 3 あいさつ 大会会長 大会実行委員長 4 祝 辞 文部科学大臣 岩手県知事 盛岡市長 岩手県教育委員会教育長 5 来賓紹介(祝電披露もかねて) 6 閉式のことば	50分	大会事務局 全体会運営係 総務部 各係 記録写真係 全体会記録係	マイク ボイスレコーダー 大型映像装置
10:20		閉 会			
	会場 整理	(来賓、主催者等降壇)	10分	全体会運営係 受付案内・接待係	ステージ模様替
10:30		文部科学省説明	50分	全体会運営係 全体会記録係 記録写真係	
11:20					
	準備		5分	受付案内・接待係 全体会運営係	
11:25		開 会 1 議長団あいさつ 2 全体協議 第一協議題(全日中提案) 第二協議題(四国地区提案) 3 宣言決議の提案(全日中総務部長) 4 議長団あいさつ	55分	総務部 各係 運営部 各係 編集部 各係	マイク ボイスレコーダー パソコン プロジェクター 大型映像装置
12:20	全 体 協 議 会	閉 会			
12:25	昼 食 移 動	諸連絡・各分科会への移動・昼食の配布 (昼食は分科会会場ほか)	80分	宿泊・輸送係 分科会運営係	プラカード 弁当・お茶・ごみ袋

分 科 会

各分科会 会場

13:45		開 会 1 開会のことば、係紹介 2 司会者あいさつ 3 日程説明・運営について 4 研究発表 5 研究協議 6 まとめ 7 司会者あいさつ 8 諸連絡 9 閉会のことば	180分	総務部 各係 分科会運営係 (発表者) (担当者) 分科会運営係 分科会記録係 受付案内・接待係 宿泊・輸送係	マイク ボイスレコーダー スクリーン パソコン プロジェクター 立看板 標示札 名簿 資料
16:45		閉 会			

【第3日】10月18日（金）

アトラクション・全体会・記念講演・閉会式

トーサイクラシックホール岩手 大ホール

時程	行 事	実 施 内 容	時間	担 当 者	準 備
8:30	受 付	会場準備完了、各係配置完了 受付 資料配付	45分	総務部 各係 全体会運営係 受付案内・接待係	宣言・決議(案) 湯茶 講演会資料
9:15		宣言・決議(案)配付			湯茶コップポット等
9:20 9:50	アトラクション	矢巾町立矢巾北中学校特設合唱部 「合唱」	30分	総務部 各係 記録写真係	マイク(多数)
	会 場 整 理		10分	総務部 各係 全体会運営係	ステージ模様替え
10:00 10:20	全体会	開 会 1 開会の言葉 2 協議 ・議長団あいさつ ・大会宣言決議 ・その他 3 諸連絡 4 閉会の言葉 閉 会	20分	総務部 各係 全体会運営係 (全日中議長団) 記録写真係 全体会記録係 受付案内・接待係	マイク ボイスレコーダー 大型映像装置 標示札
	準 備		10分	総務部 各係 全体会運営係	ステージ模様替え
10:30 12:00	記 念 講 演	開 会 1 講師紹介 2 講 演 講師 本間 希樹 氏 3 花束贈呈 閉 会	90分	総務部 各係 全体会運営係 記録写真係 全体会記録係 受付案内・接待係 宿泊・案内係	マイク ボイスレコーダー 大型映像装置 花束 ペットボトル ホワイトボード
	準 備		5分		ステージ模様替え
12:05 12:30	閉会式	開 会 1 開式のことば 2 あいさつ ・大会会長 ・大会実行委員長 ・次期開催地代表(香川県) 3 閉会宣言 閉 会	25分	総務部 各係 全体会運営係 記録写真係 全体会記録係 受付案内・接待係 宿泊・輸送係	
		諸連絡 散 会		会員部 各係	プラカード

V 研究協議会主題及び分科会研究題

《研究協議会主題》

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる 中学校教育」

〈解説〉

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は新たな局面を迎えていると予想される。人口減少や高齢化、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化や多極化、地域環境問題など変動制や不確実性、複雑性、曖昧性の時代であり、先行き不透明で将来の予測が困難な未来となっている。

また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあつては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが必要である。そうした中、我が国は、I o T (Internet of Things) や人工知能 (A I) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、必要な情報が必要なときに提供されるような超スマート社会 (Society5.0) の仕組みづくりに挑み始めている。さらに、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、社会秩序や人々の生活等を一変させるような事態と子供たちが常に隣り合わせにあることを実証することとなった。この先にある時代を担う子供たちには、様々な変化に主体的に向き合うとともに我が国の伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した日本人として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、よりよい社会を形成していく力を身に付け、望む未来を私たち自身で示し、作り上げていくことが求められる時代となっている。

令和3年度から全面実施となった学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指して、確かな学力の育成や道徳教育の充実、体験活動の重視、豊かな心や健やかな体の育成を改訂の基本的な考え方としている。そのことを踏まえて各学校において、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく「カリキュラム・マネジメント」に努めるものとしている。また子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められるとしている。

一方、中学校教育の現状を見ると、いじめの問題をはじめ、暴力行為、パソコンやスマートフォン等を利用した問題行動、規範意識や社会性の未成熟、学習意欲の低下など、様々な課題が指摘されている。これらの課題の解決を図るとともに、自殺の防止や不登校生徒への支援等に取り組み、子供たちの命や安全を守るためにも、教職員の力だけでなく、家庭や地域の教育力を生かしたり関係機関との連携を図ったりしていくことが必要である。そのために、学校は従来から閉鎖的と言われる体質から抜け出し、「地域とともにある学校」に転換していくことが求められている。

中央教育審議会の『令和の日本型学校教育』の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申) では、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中、子供たちの資質・能力を確実に育成するためには、学習指導要領を着実に実施していくことが重要であるとしている。その上で、2020年代を通じて実現を目指す新しい時代を見据えた学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指すとしている。その実現のためには、これまでの学校教育が担ってきた、学習機会と学力を保障するという役割、全人的な発達・成長を保障する役割、人と安全・安心につながるができる居場所としての福祉的な役割を継承しつつ、学校教育を社会に開かれたものとしていくこと、学校教育を支える全ての関係者が、それぞれの役割を果たし、互いにしっかりと連携することで必要な改革を進めていくことが期待されている。また、教師の勤務時間管理の徹底や学校及び教師が担う業務の明確化・適正化、教職員定数の改善充実、専門スタッフや外部人材の配置拡充などの学校における働き方改革を強力に推進すること、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に資するよう、これまでの実践と

ICT とを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげられるようにすることも期待されている。

全日本中学校長会は、全日中新教育ビジョンの趣旨を踏まえ、学校における働き方改革を含めた新たな教育課題に対して果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進することにより、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革を進めていかなければならない。そこで、令和6年度第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会において、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を研究協議会主題として研究を深め、我が国の中学校教育の向上に資するとともに、広く国民の負託に応えたい。

《分科会研究題と研究の視点》

下記の1から8にある①から③の「研究の視点」の扱いについては、指定を受けた各地区が重点とする研究の視点を選択し、研究を行うこととする。また、学校経営の視点を踏まえたものとする。

1 「カリキュラム・マネジメント」の推進（担当 四国地区）

（解説）予測困難で急激に変化する社会に生きる生徒たちは、未知の状況に対応し、新しい時代を切り拓いていく力を身に付けなければならない。そのため学校には、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を形成するという目標を社会と共有しながら、生徒たちに育成すべき資質・能力を具体的かつ明確に示し、社会と連携・協働して育んでいくための「カリキュラム・マネジメント」を推進することが求められる。

生徒たちが豊かな創造性を備え持続可能な社会の形成者となるためには「生きる力」が必要であり、その資質・能力の柱は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」である。そこで各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる力の育成のために、教科等横断的な学習の充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等が求められており、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」に努めることが必要である。

- ① 全面実施となった学習指導要領に基づく教育課程の実施状況を把握し、その改善を図るための学校評価の在り方
- ② 豊かな人生の実現や感染症・災害等を乗り越えて次代の社会を形成するために、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成・実施・評価
- ③ 地域の人的・物的資源を有効活用した「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現（担当 東海北陸地区）

（解説）生徒たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「どのように学ぶか」という学びの質が重要になる。学びの質は、生徒たちが様々な社会の変化に向き合い、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話や書物等を通して考えを広めたり深めたり、各教科等で身に付けた資質・能力を様々な問題の発見や解決に生かすよう学びを深めたりすることによって高まる。教員には、習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡し、個々の内容事項を指導することによって育まれる資質・能力を自覚的に認識しながら、子供たちの変化等を踏まえつつ自ら指導方法を不断に見直し、改善していくことが求められる。その際、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。加えて、対面指導の重要性、オンライン教育等の実践で明らかになる成果や課題を踏まえ、発達の段階に応じて、1人1台端末の日常的な活用を「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて推進するとともに、日々の授業改善に向けた取組を活性化していくことが必要である。

- ① 教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫
- ② 全ての学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題を発見し解決する能力の向上
- ③ 全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学びの実現」

3 よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実（担当 東北地区）

（解説）すべての人が互いを尊重し、誰もが生き生きとした人生を享受できる共生社会を目指し、その実現に向けた社会的包摂を推進する必要がある。学校や地域社会の一員として参画し、自らの個性を生かして幸せに生活でき、誰一人取り残されず一人一人の可能性が最大限に引き出されることができるようになるためには、他者への共感や寛容性、更には多様性

を尊重する態度、人間関係を築く力、異なる考えの人々と議論を重ねながら問題を解決していく力などを育成する機会を計画することが重要である。そのためには、各教科等における道徳教育との関連を図りながら、「特別の教科 道徳」において、発達の段階に即した計画的、発展的な指導や様々な体験活動等を生かす指導など、道徳的諸価値についての理解を基に、人間としての生き方についての考えを深める授業の充実を図り、生徒の道徳性を養うことが必要である。

さらに、現実の問題に対応できる資質・能力を育むためには、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実するとともに、生徒が自分自身の問題と捉え真正面から向き合い、一面的な見方から多面的・多角的に考え議論していく「考え、議論する」道徳科の授業を実施することが大切である。また、家庭や地域社会と育てたい生徒像を共有し、相互の連携強化を図ることも重要である。

- ① 道徳的諸価値についての理解と、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- ② 生徒が自ら考え理解し、主体的に道徳性を育むための指導と評価の工夫
- ③ 道徳教育推進教師を中心とした協力的な指導体制の充実

4 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実（担当 関東甲信越地区）

（解説）生徒の体力の状況については、これまでの学校の取組により、ゆるやかに上昇してきた。しかし、「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点の結果は、小中男女ともに令和元年度より低下し、特に男子は小中ともに現在の調査方式になった平成20年度以来、過去最低の点数となった。体力低下の要因として、①運動時間の減少②学習以外のスクリーンタイムの増加③肥満である生徒の増加が考えられ、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、更に拍車がかかった。また、生徒を取り巻く環境の変化や人の生命を脅かす感染症の流行等に伴う新たな健康問題に対応した教育が必要であるとの指摘もある。

こうした指摘を踏まえ、生涯を通じて心身ともに健康・安全で活力ある生活を送るために必要な資質・能力を育て、心身の調和のとれた発達を図り、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現する基礎を培う必要がある。特に、食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、関係する教科等において適切に行うよう努めなければならない。

- ① 生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成と体力の向上
- ② 食育の推進及び心身の健康の保持増進や感染症等の予防と対策に関する指導の充実
- ③ 身の回りの生活の安全、交通安全、防災に関する指導や情報化の進展に伴う事件・事故の防止等の新たな安全上の課題に関する指導の充実

5 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実（担当 中国地区）

（解説）産業構造・就業構造の変化に加え、雇用形態や雇用慣行が多様化・流動化する中で、義務教育修了段階にある生徒たちに対し、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けることができるよう、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」によって構成される「基礎的・汎用的能力」を育成するキャリア教育が求められる。加えて、小・中・高等学校のつながりを明確にしたキャリア教育の充実を図ることが大切であり、令和2年度より児童生徒が活動を記録し蓄積する教材としてのキャリア・パスポートが、すべての小・中・高等学校において導入され、活用されている。

また、一人一人が、多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会の中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、特別活動を要としつつ学校の教育活動全体を通じて組織的かつ計画的な進路指導を行うことが重要である。

- ① 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する系統的なキャリア教育の充実
- ② 教育活動全体を通じた組織的・計画的な進路指導の充実
- ③ 学校と地域・社会や産業界等が連携・協働した職業講話や職場体験活動の充実

6 自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実（担当 北海道地区）

（解説）学校教育は、集団での生活や活動を基本としており、生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深く関わっている。好ましい人間関係を基礎に、自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成することは、人格のよりよい形成と学校生活の充実の基盤となる。我が国のいじめの背景には、学級内の人間関係に起因する問題が多く指摘されていることから、学級経営と生徒指導の関連を図った、学級活動の充実がいじめの未然防止の観点からも一層重要となる。そのために、学級活動をはじめとする特別活動や部活動は、集団や社会の一員としてよりよい生活や人

間関係を築き、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う重要な役割をもつ。

平成25年に施行されたいじめ防止対策推進法に基づき、組織的な対応と関係機関との連携の強化等が図られた。しかし、いじめの問題、自殺などが依然として発生しており、不登校も増加傾向にあることを踏まえ、各学校では組織的、継続的な支援・取組を更に充実させるとともに、家庭や地域及び関係機関、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフ等との連携を一層充実させる必要がある。

- ① 好ましい人間関係を築き、他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する学校教育の在り方
- ② いじめの問題への対応や自殺の防止及び不登校生徒への支援の在り方
- ③ 家庭や地域及び関係機関、専門スタッフ等との連携・協力を密にした生徒指導の推進

7 「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成（担当 近畿地区）

（解説）「令和の日本型学校教育」を実現し、それを担う質の高い教師となるためには、教師自身が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技術を学び続ける主体的な姿勢が必要である。また、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たし、子供の主体的な学びを支援する伴奏者としての能力も備えていることが求められる。

今後、改めて教師が高度専門職業人として認識されるためには、地域や学校現場の課題の解決を通じた学びを含め、自らの日々の経験や他者から学ぶといった「現場の経験」を重視したスタイルの学びが求められ、これらが「新たな教師の学びの姿」を構想する上での鍵となる。そのような学びを通じて、教師一人一人が専門職としての高度な知識・技能と、個々の生徒の多様な実態を踏まえた一人一人が抱える課題に個別に対応できる指導力を身に付けるとともに、高い倫理観に立ち、使命感溢れる指導を行って、生徒や保護者、地域の信頼を獲得することが不可欠である。

また、教員養成段階から、生徒にプログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力も含む情報活用能力を身に付けさせるためのICT活用指導力を養成することや、学習履歴（スタディ・ログ）の利活用などの、教師のデータリテラシーの向上に向けた教育などの充実を図っていくことが求められており、現職の教師に対してはICT活用指導力の一層の向上を図ることが急務である。さらに、心理や福祉等の専門スタッフなど多様な人材と協力したり、地域と連携・協働を円滑に行ったりする資質・能力をもち、新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばして諸課題の解決に取り組むことができる人材の育成が求められる。

- ① 生徒や保護者、地域の信頼に応えられる教師の育成と「新たな教師の学びの姿」を実現する研修の在り方
- ② 教科等の専門性と指導力、及びICT活用指導力を含めた新たな課題に対応できる力量を高める人材育成と研修の在り方
- ③ 地域等と協働し、組織的に諸課題の解決に取り組むことができる教師の育成

8 学校と地域の連携・協働による「チーム学校」と「働き方改革」の実現（担当 九州地区）

（解説）学校には、これまでも新たな課題に応じて、司書教諭、栄養教諭等の新しい職が導入されてきた。近年は、ますます複雑化・多様化する教育課題に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の教員以外の専門スタッフが導入されている。そのため、これからは教職員間のより一層の組織的対応を強化することはもちろん、すべてを教職員が担う自己完結型の運営を廃し、これら専門スタッフとの協働を推し進め、学校内の多様な人材がそれぞれの専門性を生かして能力を発揮するチームとしての学校を実現していくことが求められる。

また、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）等を活用するなど、チームとしての学校と地域の連携体制を整備していくことで、地域とともにある学校づくりを推進し、社会総がかりで教育を進めていくことも求められる。その結果として、教員が担うべき業務の精選・明確化などを図り、新たに導入されたスクールサポートスタッフ、ICT支援員等を活用し、教員の働き方改革につなげていくことや教育委員会等に配置されているスクールロイヤー等を活用し法的整理を踏まえた役割分担・連携が必要である。

こうした「チーム学校」の実現のため、校長は、これまでの教職員の管理を主とするマネジメントから脱却し、多様な知識・経験を持つ人材との連携を強化し、そうした人材を取り込むことで、社会のニーズに対応しつつ、高い教育力を持つ組織となるためのマネジメントを進めていく必要がある。

- ① 教職員や多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める学校経営の在り方
- ② チームとしての学校と地域の連携・協働体制の在り方
- ③ 専門スタッフ等との連携による「教員の働き方改革」の実現

VI 大会推進のための主な業務内容

【令和3年度】

月	会 議 名	業 務 内 容
10	県中校長会 常任理事会	・準備委員会設立に向けた検討 ・大会日程、開催会場検討 ・実施概要（案）の検討 ・大会組織、業務内容、大会予算書の検討 ・大会準備スケジュール等の検討
10	東北地区中校長会 臨時副会長会議（Web）	・岩手大会への東北地区中校長会からの協力金に係る検討1
11	東北地区中校長会 副会長会 理事会	・岩手大会への東北地区中校長会からの協力金に係る検討2

【令和4年度】

月	会 議 名	業 務 内 容
4	県中学校長会 準備委員会1 （以下、「準備委員会」という）	・準備委員会の設立 ・大会準備日程等の見通し検討（会場等） ・大会会場の申請・仮予約（岩手県民会館）
5	準備委員会2	・大会シンボルマーク作成依頼 ・大会スローガン（コンセプト）提案 ・大会記念講演講師検討
8	準備委員会3	・大会シンボルマーク確認・完成 ・大会スローガン確認・決定
9	準備委員会4	・大会記念講演講師決定・依頼訪問・受諾
10	準備委員会5 全日中第2回Web理事会	・岩手大会「実施概要（案）」提案、協議。調整へ。 ・北海道（札幌）大会分科会運営委員会、全体協議会運営委員会視察（Web）
10	準備委員会6	・業務委託業者との打ち合わせ（会場設営、放送機材等） ・宿泊業者、旅行業者との打ち合わせ
10	準備委員会7	・全日中理事会、運営委員会等に係る打ち合わせ（ホテル）
11	準備委員会8	・分科会提案の担当県に係る調査（担当県と協議確認）
12	準備委員会9	・業務委託業者との打ち合わせ ・岩手大会予算（案）の検討
12	準備委員会10	・分科会会場の視察と仮予約
1	準備委員会11	・分科会会場の事前予約申請書作成・発送
1	準備委員会12 全日中第3回Web理事会	・「全日中岩手大会実施概要（案）」の提案→承認 ・東北地区中副会長会・理事会での提案協議（予算等）

		・盛岡観光コンベンション協会との打ち合わせ
3	準備委員会 13	・全日中岩手大会「実施要項（案）」の検討

【令和5年度】

月	会 議 名	業 務 内 容
5	準備委員会 14	・全日中岩手大会「実施要項（案）」の検討 (以下、「岩手大会」という。)
5	準備委員会 15	・岩手大会「実施要項（案）」の検討 ・「実施要項（案）」について、全日中事務局へ発送
5	準備委員会 16 全日中第1回理事会	・岩手大会「実施要項（案）」の提案・説明・審議その1
5	準備委員会 17	・岩手大会の分科会会場の使用申請書作成・送付 ・岩手大会ピンバッジ正式依頼
6	準備委員会 18 第2回県中校長会理事会	・大分大会での「岩手大会PR動画」検討（次年度までの継続） ・実行委員会設立についての提案・協議
6	準備委員会 19	・後援申請（文部科学省、岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、岩手県市町村教育委員会協議会、岩手県小学校長会、（一社）岩手県PTA連合会等） ・助成金等申請書類作成（岩手県教育振興基金、（公財）日本教育公務員弘済会岩手支部、岩手県学校生活協同組合等）
7	準備委員会 20	・第1回岩手大会実行委員会（以下、「実行委員会1」という）の内容について ・各地区校長会の業務内容等の検討
9	準備委員会 21	・第3回県中校長会理事対象の会議内容確認
9	実行委員会 1 第3回県中校長会理事会	・実施要項の説明、業務分担等
10	実行委員会事務局会議 1 第2回全日中理事会	・岩手大会「実施要項（案）」について提案・説明・審議その2
10	実行委員会事務局会議 2	・全日中大分大会にて、岩手大会のプレゼンテーション
10	実行委員会事務局会議 3	・盛岡観光コンベンション協会への助成金申請 ・大分大会視察内容の確認 ・岩手大会へ向け、運営要項（案）検討
11	実行委員会事務局会議 4	・全体協議会議長団・提案者、分科会司会者・提案者の氏名集約
1	実行委員会事務局会議 4 第3回全日中理事会	・岩手大会「運営要項（案）」について提案・説明・審議その1
1	実行委員会事務局会議 5	・岩手大会に係り、文科省への質問事項・要望を各都道府県

		中学校長会に照会
1	実行委員会事務局会議 6	・ 大分県小中学校長会から、岩手県中学校長会へ引継ぎ
2	実行委員会事務局会議 7	・ 岩手大会「運営要項（案）」検討・確認 ・ 運営委員会についての検討（業務内容・分担等）
2	実行委員会 2 第 4 回県中校長会理事会	・ 実施要項の説明、業務分担等 ・ 運営要項の説明
2	実行委員会事務局会議 8 東北地区中第 2 回理事会	・ 「岩手大会運営要項（案）」の説明・審議 ・ 岩手大会に係る協力金についての依頼
3	実行委員会事務局会議 9	・ 岩手県中学校長会として次年度への引継ぎ

【令和 6 年度】

月	会 議 名	業 務 内 容
4	実行委員会事務局会議 1 0	・ 運営要項（案）の検討
5	実行委員会事務局会議 1 1 第 1 回全日中理事会	・ 岩手大会「運営要項（案）」について提案・説明・審議その 2
5	運営委員会事務局会議 1	・ 大会誌に係る「挨拶」「祝辞」の原稿依頼
6	実行委員会事務局会議 1 2 東北地区中副会長会・理事会	・ 運営要項の説明、協力依頼
6	実行委員会 3 第 2 回県中校長会理事会	・ 運営要項をもとに、進捗状況の確認、検討事項の協議 ・ 文部科学省への質問事項取りまとめ作成・発送
6	運営委員会事務局会議 2	・ 大会誌購入希望調査、大会誌原稿締切 ・ 文部科学省担当者の派遣要請 ・ 大会参加者名簿、参加費、宿泊申込締切・集約 ・ 来賓・招待者への案内状発送、祝辞依頼 ・ 参加申込締切・集約 ・ 来賓・参加者名簿作成
7	実行委員会事務局会議 1 3	・ 県知事、市長、県教委、市教委への表敬訪問 ・ レセプションの案内状発送と祝辞依頼 ・ 文科省への質問事項を全日中事務局へ発送
8	実行委員会事務局会議 1 4	・ 大会役員、来賓、招待者名簿作成 ・ レセプション打ち合わせ
8	実行委員会 4	・ 運営要項説明、運営細案、役割提案、承認 （観光資料、出店業者決定）
8	実行委員会事務局会議 1 5	・ 大会誌ゲラ刷り（提案者原稿）全日中事務局へ提出 ・ 全体協議会・分科会運営委員会開催通知発送 ・ 来賓・招待者への案内状発送 ・ レセプション案内状発送、祝辞依頼 ・ 大会誌印刷（1 8 0 0 部）

9	実行委員会事務局会議 16	・ 大会誌を全日中事務局へ発送
9	実行委員会 5	・ 各部進捗状況確認 ・ 運営細案・役割最終確認
10	実行委員会 6 ○大会前日 ○大会 1 日目 ○大会 2 日目 ○大会 3 日目	・ 大会前日の総点検 ・ 全日中常任理事会、全日中理事会 ・ 全体協議会運営委員会、分科会運営委員会、レセプション ・ 大会宣言文印刷 ・ 開会式、文科省説明、全体協議会、分科会 ・ アトラクション、全体会、協議、記念講演、閉会式 ・ 大会報告書作成開始
11	実行委員会事務局会議 17	・ 関係機関への挨拶（御礼） ・ 記録の整理 ・ 会計決算・監査、お礼状の発送 ・ 関係機関への報告書提出 ・ 大会経費支払い完了、全日中事務局へ会計決算書提出
12	実行委員会事務局会議 18	・ 岩手大会の総括
1	実行委員会事務局会議 19 第 3 回全日中理事会 第 2 回東北地区中理事会	・ 岩手大会の総括の報告及び御礼 ・ 次年度開催権（香川県）との引継ぎ会
2	実行委員会 8	・ 岩手大会の総括の報告及び御礼

令和6年度 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会予算(案)

収入	29,031,000
支出	29,031,000
残額	0

《収入の部》

項 目	予算案	摘要
1 会費	12,600,000	参加費@7,000円×1,800人
2 負担金	11,760,000	
全日本中学校長会	8,000,000	研究協議会負担金
全日本中学校長会	1,600,000	研究費補助・大会費補助
開催地中学校長会	2,160,000	岩手県中学校長会より(15,000円×144名)
3 協力金	2,920,000	東北地区中学校長会より4,000円(2年間)×730名(岩手県除く)
4 補助金	1,750,000	関係諸団体より(予定)
5 雑収入	1,000	預金利息等
合 計	29,031,000	

《支出の部》

項 目	予算案	摘要
1 庶務費	9,500,000	
1 事務費	7,600,000	
事務局運営費	3,200,000	事務職員手当 等
印刷製本費	1,500,000	実施要項・運営要項、案内状、大会用袋 等
旅費	2,000,000	視察、打合せ、引継ぎ会(R6大分・R8香川)全日中会議 等
通信運搬費	200,000	事務局通信費(郵券、電話料、振込手数料) 車代 等
消耗品費	500,000	事務用品、用紙代、封筒、インク、DVD-R、USBメモリ 等
借り上げ費	200,000	各種機器(コピー機、電話、PC、プリンタ 等)
2 会議費	1,900,000	
役員会議費	900,000	実行委員会、運営委員会 等
全体会議費	500,000	全日中関係諸会議、旅費、全体会打ち合わせ 等
諸会合費	500,000	分科会打ち合わせ、各部会諸準備会議 等
2 事業費	19,109,000	
1 資料費	3,450,000	
大会誌	2,100,000	2,100冊
宣言・報告書	900,000	用紙代、印刷製本費 等
編集費	450,000	記録写真代、資料収集費、編集作業諸経費 等
2 運営費	1,594,000	
業務宿泊費	500,000	前日準備、役員宿泊費
渉外費	500,000	
業務委託費	594,000	近畿日本ツーリスト(330円×1,800名)
3 大会費	14,065,000	
会場費	3,000,000	全体会場、8分科会場施設使用料 備品代 等
設営費	4,750,000	各会場設営費、映像機器、看板 等
賃金	500,000	派遣スタッフ等人件費(PC、映像オペレーター、アナウンサー等)
謝金	640,000	講師、アトラクション謝金、旅費、シンボルマーク作成謝金 等
昼食費	2,775,000	会員 他 @1,500円× 1,850個
交流会費	1,500,000	情報交換会 等
消耗品費	800,000	ネームカード、壺花、ピンバッジ、等
輸送費	100,000	役員・来賓の会場移動 等
3 雑費	180,000	
4 予備費	242,000	
合 計	29,031,000	